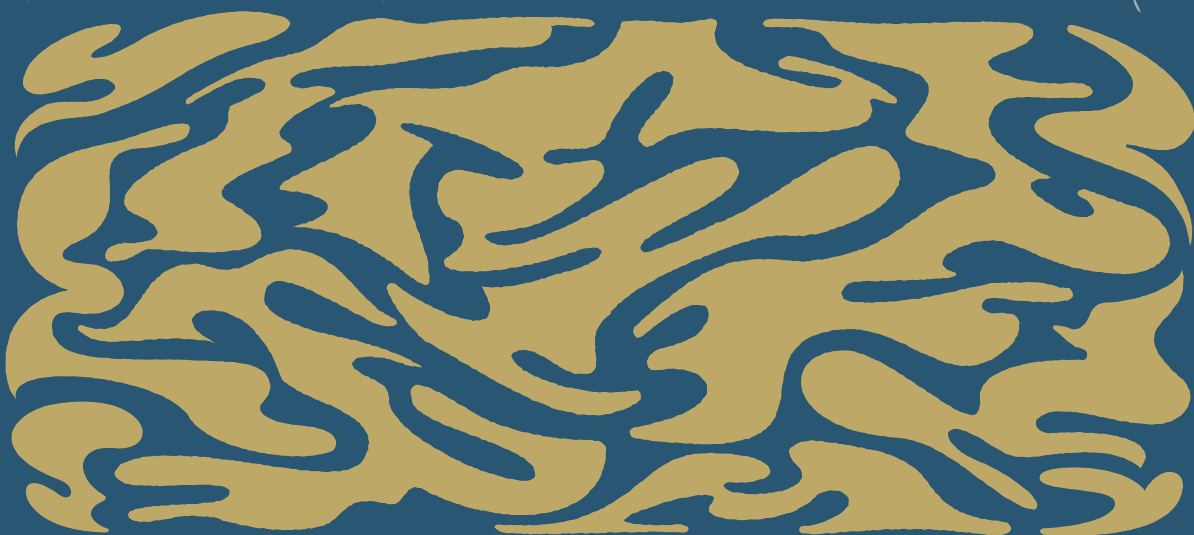




Selected Works
from Musashino Art University
Degree Show 2022

2022年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作 優秀作品展



凡例

- 優秀賞受賞者数と展示スペースの都合により、出品者の多くは卒業・修了制作展時の抜粋または記録による展示である。そのため、本目録では卒業・修了制作展時の作品情報を全て記した。本展出品作品の情報は、会場に設置したキャプションを参照されたい。
- 各出品情報は学科(コース、専攻)ごと、出品者名の五十音順で記した。
- 各出品情報は出品者本人による記述をもとに当館が編集し、以下の順に記した。

出品番号

— (本展での展示場所)

出品者名 出品者名英字

『作品名』

素材・技法

サイズ

- ・ 作家名がある場合、作家名・作家名英字(出品者名・出品者名英字)の順に記したが、本人希望により作家名のみ記す場合もある。
- ・ 作家名について、個別の作品名に加えて、作品群全体にも名称がある場合、個別の作品名の前に記した。
- ・ メディアやジャンル等(インスタレーション等)について、一部、素材・技法の前に記したものもある。
- ・ 素材・技法およびサイズについて、作品が複数点ある場合、原則作品名順に記した。
- ・ サイズについて、単位はmmで、[H(高さ)]×[W(幅)]×[D(奥行)]、[縦]×[横]、可変のいずれかで記した。そのほか、論文については[頁数(字数)]、映像については[**分**秒]など、作品形態に合わせて適宜記した。

日本画学科

001

→ [アトリウム1](#)

何 承霖 He Chenglin

『スターゲイザー・バイー鯨山水』

インスタレーション
キャンバス、箔、岩絵具、墨、アクリル絵具、顔料
可変

002

→ [展示室3](#)

清水 千穂 Shimizu Chiho

『ペン立て』

高知麻紙、岩絵具、水干絵具
2500×1700

003

→ [アトリウム1](#)

獅子野あんころ Shishino Ankoro

(寺井 果音 Terai Kanon)

『巡想』

インスタレーション
和紙、岩絵具、水干絵具、胡粉、ダンボール、スタイロフォーム、
紙粘土、ほか
1160×1800×1800

004

→ [展示室3](#)

馬場 梨里花 Baba Ririka

『誰かのいないをしている』

高知麻紙、岩絵具、水干絵具
2300×1620

005

→ [展示室3](#)

藤本 恭子 Fujimoto Kyoko

『今日、園の外から』

雲肌麻紙、岩絵具、水干絵具
2000×5000

油絵学科[油絵専攻]

006

→ [展示室3前](#)

江崎 空悟 Ezaki Kugo

『ONo.100 ~disir ilin~』

インスタレーション
建築木材、膠、顔料、寒冷紗
可変

007

→ [展示室1](#)

川本 仁紀 Kawamoto Niki

『46億年前から別れ話』

映像
プロジェクター
18分00秒

008

→ [展示室3](#)

キム ジウォン Kim Jiwon

『Woman |

The Making of a WOMAN』

インスタレーション
韓紙、刺繍、水彩絵具、パステル、タブレット
可変[映像:3分11秒を含む]

009

→ [美術館ホール\(上映\)](#)

佐藤 雲母 Sato Kirara

『The Feeling of Being Alive』

映像
スタイロフォーム、布、ワイヤー、プロジェクター、スピーカー、
メディアプレイヤー
10分31秒

010

→ [展示室3](#)

佐藤 駿乃輔 Sato Shunnosuke

『反芻する思考放棄状況』

インスタレーション
キャンバス、油絵具、セロテープ、油性ペン、アクリル紐、ビス
可変

011

→ [展示室3](#)

島田 明洋 Shimada Akihiro

『知らない言葉も呼びかける、または影踏』

インスタレーション
キャンバス、油絵具、木材、鏡、スタンドライト、ほか
可変

012

→ [展示室3](#)

的野 仁紀 Matono Hiroki

『先生 | 保証書』

紙、鉄、綿、テープ、ペンキ、ほか
1000×500、3775×7000

013

→ [アトリウム2](#)

山口 大介 Yamaguchi Daisuke

『隣の倉 | 帰路 | 竹林 木洩れ日 |

登り道 | うねる道 | 古屋 | 畦と池 |

反照に路』

麻キャンバス、油絵具、墨
910×910、1990×1300、1310×970、3050×1900、530×455、
1580×1320、2300×2700、3150×6900

油絵学科[版画専攻]

014

→ [展示室3](#)

田中 千里 Tanaka Chisato

『都市のリズム』

紙、インク、リトグラフ
3330×7350

015

→ [展示室3](#)

チョウ ウリン Zhang Yulun

『88512963』

紙、インク、石膏、銅版画、モノタイプ
1800×1800

彫刻学科

016

→ [アトリウム1](#)

上野 聖人 Ueno Kiyoto

『Neuter(rs) | Neuter(ub)』

樟木、岩絵具、膠、鉄
2020×660×920、2010×640×920

017

→ [アトリウム1](#)

保坂 杏奈 Hosaka Anna

『ふたしかにある | メモ』

諫早石
850×1300×400、
[最小]40×100×50-[最大]60×150×110(5点)

018

→ [アトリウム1](#)

宮本 颯 Miyamoto So

『carbonized measure C | Static

creeping and shaping the air』

ブロンズ、鉄、木材、鋳造
250×2000×800、1300×1900×900

視覚伝達デザイン学科

019

→ [展示室4](#)

池田 樹 Ikeda Itsuki

『手話—視覚言語の世界を旅する—』

紙
本:各260×260(98頁、50頁、68頁)

020

→ [展示室4前](#)

梅沢 真綾 Umezawa Maya

『揺れうごく僕の性』

紙
本:各297×210(176頁、86頁)、210×148(88頁)

021

→ [椅子ギャラリー前](#)

岡 友紀子 Oka Yukiko

『moji motion』

紙、アクリル、透明フィルム
本:297×420(98頁)、スリットアニメーション装置:[最小]400
×400×1200-[最大]400×2000×800(7点)

022

→ [展示室1](#)

小山 実織 Koyama Miori

『群れ swarm』

ドライアイス、石粉粘土、紙、液晶ディスプレイ
本:220×220(100頁)、写真:各329×483(8点)、映像:約16分

023

→ [第10講義室](#)

佐藤 志織 Sato Shiori

『子供心から眠く日常』

紙
本:各200×200(14頁/2点、16頁、18頁/2点、24頁、32頁)

024

→ [美術館ホール\(上映\)](#)

時任 泰地 Tokito Taichi

『B a n a n a』

アニメーション
5分06秒

025

→ [アトリウム2](#)

二階堂 真優 Nikaido Mayu

『すぐそばの自然を知る』

紙、MDF、スチレンボード、ほか
写真パネル:594×841、映像:1分00秒、図表:1380×841、
模写:95×650×75、写真集:365×281(275頁)、
パンダー-365×281、フィールドノート:180×130(140頁)

026

→ [展示室4](#)

長谷川 健 Hasegawa Takeru

『揺れ光る平面』

紙、アクリル
本:329×483、パネル:297×420、841×594

027

→ [展示室1](#)

渡邊 優斗 Watanabe Yuto

『東京新歌枕』

液晶ディスプレイ、紙
映像:各3分30秒(10点)、本:各146×60(10点)、
ポスター:各900×260(10点)

工芸工業デザイン学科

[クラフトデザインコース]

028[陶磁専攻]

→ [アトリウム1](#)

伊藤 百花 Ito Momoka

『空のかたち』

陶土、手びねり
[最小]70×70×35-[最大]300×280×110(17点)

029[陶磁専攻]

→ [アトリウム1](#)

向井 奈生子 Mukai Naoko

『水生陶器標本』

陶土、手びねり、たたら成形、練込
[最小]20×20×50-[最大]150×180×260(54点)

030[ガラス専攻]

→ [アトリウム2](#)

佐藤 ゆめみ Sato Yumemi

『Guide to Anywhere』

ガラス、金液、銀液、紙、アクリルパネル、宙吹き、研磨、接着、金彩、
銀彩
ガラス作品:350×200×200(3点)、パネル:297×219(3点)

工芸工業デザイン学科

[インダストリアルデザインコース]

031

→ [展示室5](#)

齋藤 将太 Saito Shota

『LIGHTY.』

プロダクトデザイン
PVC樹脂、ナイロンメッシュ、軟性樹脂、LED、バッテリー
ライト:各300×300×275(6点)、映像:1分

032

→ [展示室2](#)

下河 結衣 Shimogawa Yui

『PLATFORM—無人車で車椅子ユーザー

をサポートする搬送車—』

プレゼンテーション
PLA樹脂、アクリル、MDF、CAD、3Dプリント
モデル:300×1200×1111、映像:50秒

033

→ [アトリウム2](#)

北條 良孝 Hojo Yoshitaka

『Moving Park』

プロダクトデザイン
PLA樹脂、PVC樹脂、レジン、アルミ、布、3Dプリント
模型:285×1200×250

工芸工業デザイン学科 [インテリアデザインコース]

034 → [アトリウム2]

ツルタ シュリ Tsuruta Shuri
(鶴田 朱里 Tsuruta Shuri)
『CROZZY』

プロダクトデザイン
ステンレス、ガラス
各340×660×510(2点)、380×760×450、440×525×495、
510×650×615

035 → [展示室2]

藤井 結理 Fujii Yuri
『PASSAGE』

プレゼンテーション
 MDF、アルミ板、アクリル板、アクリル絵具、合板、単管
全体模型:約200×2450×500、部分模型:1100×800×500

036 → [展示室2]

muto yumi
(武藤 結実 Muto Yumi)

『構造体な布 space-position in』
プロダクトデザイン
布、木、縫製
各465×480×395(2点)

空間演出デザイン学科

037 → [第10講義室前]

神田 愛子 Kanda Aiko
『heim』
インスタレーション
石膏ボード
3000×4000×4500

038 → [第10講義室前]

菊本 尚 Kikumoto Nao
『Faces』
木材、金属、モーター、発泡スチロール、樹脂
360×280(10点)

039 → [第10講義室前]

久保田 侘奈 Kubota Reina
『quiet water is deep.』
インスタレーション
発泡スチロール、プリント、布
可変[立体写真:1550×800×400を含む]

040 → [アトリウム2]

小島 亜佑子 Kojima Ayuko
『旅する道具』
クレヨン、パラフィン
可変[記録映像:3分17秒を含む]

041 → [展示室5]

齋藤 愛実 Saito Manami
沼野 美寿徳 Numano Mizuho
『巢』
パフォーマンス
布、毛糸、木、紙
5000×6000×2700

042 → [図書館テラス]

坂上 桜月 Sakagami Satsuki
『深息』
インスタレーション
実家のカーテン、紙
可変

043 → [展示室1]

城 凜香 Jo Rinka
『ゞ』
インスタレーション
ブラレール、針金、ストロー、塩、塩漆
2700×8400×12000

044 → [展示室5]

一杉 志野 Hitosugi Shino
『BEYOND TIGER LILY』
ファッションショー
布、アクリル板、金属、ほか
公演時間:7分20秒

045 → [展示室2]

平田 円理 Hirata Madori
『yadorigi st.』
プレゼンテーション
ステンボード、バルサ、紙、PVC樹脂、水、小石、ほか
模型:300×720×680

046 → [図書館テラス]

福川 ひかり Fukugawa Hikari
『磊』
インスタレーション
石膏、水、モルタル
可変

047 → [展示室1]

吉田 航 Yoshida Wataru
『動きの統計学』
石、アクリル、木材、金属、モーター、LEDストロボ、LED電球
可変[立体映像装置:2000×1200×1200を含む]

建築学科

048 → [展示室2]

始良 壮志 Aira Soushi
『pass』
プレゼンテーション
スタイロフォーム、紙、石膏、PVC板、ほか
模型:600×1840×2600、250×450×530

049 → [展示室2]

奥田 涼太郎 Okuda Ryotaro
『海への「おくりもの」』
プレゼンテーション
ステンペーパー、チップボール、ジェッソ、PLA樹脂、砂、紙、
ほか
模型:800×3000×600、180×800×800

050 → [美術館前芝生]

加藤 美紗 Kato Miisa
『溢れる』
インスタレーション
鉄製ワイヤーメッシュ、PVC製バルーン、水
2000×4500×4500

051 → [展示室2]

吉川 布記 Yoshikawa Fuki
『強く生きる子ども達の新たな出発点』
プレゼンテーション
ステンボード、紙、アクリル板、針金、バルサ板、ほか
模型:450×1800×1800、100×420×900、500×500×10

052 → [展示室2]

吉田 真 Yoshida Makoto
『産業遺産転用計画』
プレゼンテーション
スノーマット、チップボール、スタイロフォーム、PLA樹脂
本模型:1300×2500×1100
広域模型:430×660×800

基礎デザイン学科

053 → [展示室4]

石坂 明日香 Ishizaka Asuka
『Tokyo Constellation』
紙
本:各210×210(128頁、100頁)
パネル:[最小]400×778-[最大]900×1750(4点)

054 → [アトリウム2]

児玉 京子 Kodama Kyoko
『わたしはあなた、あなたはわたし』
インスタレーション
糸、LEDテープライト、木材
2930×4350×2500

055 → [展示室4]

富田 理紗子 Tomita Risako
『Arcism』
ステンパネル、液晶ディスプレイ
グラフィック:[最小]362×243-[最大]832×1204(9点)
映像:39秒

056 → [図書館テラス]

成田 大喜 Narita Haruki
『情けない男』
インスタレーション
金属、プラスチック、木材、廃材
可変[公演時間:7分14秒]

057 → [アトリウム1]

宮津 早 Miyazu Saki
『パラレルスケープストーリー』
映像
プロジェクター
1分58秒

058 → [展示室1]

森島 洸 Morishima Ko
『Three Types of the
Construction from the Origin.
-Construction of degeneration-』
液晶ディスプレイ、ポスター、ほか
可変

059 → [第10講義室]

山科 友佳莉 Yamashina Yukari
『冷蔵商店街』
パネル、紙、水彩絵具
[最小]215×170-[最大]385×750(14点)

芸術文化学科

060 → [美術館ホール(上映)]

イウンソ Lee Eunseo
『ペバン連立-ペバンからみる共同社会-』
映像:36分09秒、レポート:39頁(9,797字)

061 → [第10講義室]

菅野 悠 Kanno Haruka
『内藤礼の生へのまなざし
-豊島美術館《母型》を中心に-』
論文:62頁(35,567字)

062 → [第10講義室]

佐野 悠斗 Sano Yuto
『山田正亮《Work.C》シリーズの研究
-ストライプ絵画の表現と受容の観点から-』
論文:112頁(32,734字)

063 → [展示室3]

塚本 萌生 Tsukamoto Mei
『積層する連想-絵画が重なる-
あなたには聞こえない|あなたと祈り|
愛があれば|不確かな明日|もういちど|
夢中になること』
木製パネル、アクリル絵具
910×1167(5点)、1120×1455

デザイン情報学科

064 → [第10講義室]

小野寺 健人 Onodera Kento
『EasterWars-プレイヤーと観客のコミュニケーションを促すゲーム性の探求-』
ビデオゲーム
液晶ディスプレイ、ゲームパッド、ほか

065 → [第10講義室]

川又 彩伽 Kawamata Ayaka
『バロディの現在地
-日米等比較による表現の一断面-』
紙
本:230×210(124頁)

066 → [第10講義室]

工藤 康真 Kudo Yasumasa
『江戸時代の禪画
-臨済宗の墨絵、曹洞宗の挿絵-』
紙
本:257×182(168頁)

067 ー(展示室5)
吉田 実縫 マティルダ
Yoshida Minu Mathilda
『愚かさ、賢さ、愛すこと
ーニットによる表現研究ー』
インスタレーション
ニット(棒針編み)、プロジェクター、木材、ほか
可変 [ニットへの映像投影による]

造形構想学部

クリエイティブイノベーション学科

068 ー(第10講義室)
鶴野 響 Uno Hibiki
『環境音と音風景のナラティブによる地域の再発見』
映像: 20分02秒、冊子: 297×210(17頁)、制作ノート: 297×210(64頁)

069 ー(展示室1)
テイ ハクロウ Cheng Bailang
『Across the waters
ー感情を可視化するー』
コンピュータプログラム
プロジェクター、スピーカー、Arduino、心拍センサー、Webカメラ、ほか
可変

070 ー(第10講義室)
中島 純 Nakajima Jun
『公民館の腕まくりー民間の営利活動を伴う空間が(公民館的)な空間として機能する仕組みの研究ー』
論文
48頁(33,990字)

071 ー(椅子ギャラリー前)
橋谷 一滴 Hashitani Shizuku
『さびしさにまつわる幾つかのアプローチ』
布、紙
本: 255×195(352頁)

072 ー(椅子ギャラリー前)
森 俊史 Mori Toshifumi
『今粘土の記録』
土粘土、パステル
立体: [最小]15×15×10 - [最大]120×100×210(180点)、冊子: 182×257(60頁)

073 ー(第10講義室)
山口 祐香 Yamaguchi Yuka
『ゲーム性と創造性を考慮した誰でも楽しめるスポーツデザインの研究』
プレゼンテーション
制作ノート: 80頁(20,231字)、映像: 2分21秒

映像学科

074 ー(美術館ホール(上映))
久保 心花 Kubo Kokoha
『あなたの目の電気』
映像
40分4秒

075 ー(椅子ギャラリー前)
高木 里音 Takagi Rion
『TOKYO ELEVATION』
インスタレーション
RGBLEDパネル、木材、鉄パイプ、ほか
可変 [映像: 10分00秒を含む]

076 ー(美術館ホール(上映))
羽部 空海 Habu Solami
『DOCOOK』
映像
4分24秒

077 ー(展示室3)
松浦 里南 Matsuura Rina
『空漠』
写真紙、ゲータフォーム、インクジェットプリント
各510×765(20点)

大学院造形研究科

美術専攻[日本画コース]

078 ー(展示室3)
辻 美紅 Tsuji Miku
『その先』
高知麻紙、岩絵具、水干絵具、墨、木炭、クレヨン、パステル
1940×5212

079 ー(展示室3)
中川 未貴 Nakagawa Miki
『count』
雲肌麻紙、水干絵具、岩絵具、墨、鉛筆
1818×2590

美術専攻[油絵コース]

080 ー(展示室3)
佐伯 瑠美 Saeki Rumi
『水路 | 実 | 川の石 |
切り株 | 地割れ | 水中の石 |
沈む石 | 川 | 地上に落とされた | きゅうり』
キャンバス、油絵具、アクリル絵具、紙、水性ペン、コンクリートブロック、枝、石、金属部品、パネ、ガラス瓶、竹、木、板、鉄パイプ、シュロ縄、ビニール紐、錘、石粉粘土、錐、水晶、香、水、塩、砂、石鹼水、紙箱、木箱、アクリルケース、プラスチック製キャップ、プラスチックトレー、簾、物干し台
1620×2273、1940×1940、1120×1455、1303×1620、380×455、910×1167、652×910、606×910、220×273、140×180(2点)、220×273(2点)、242×333

081 ー(アトリウム1)
田野 勝晴 Tano Katsuharu
『dawn | dusk | 光のあるところ |
密やかな結晶』
綿布、キャンバス、油絵具
1618×1450、2273×1455、2000×1700、1920×1620

082 ー(展示室3)
寺内 大登 Terauchi Hiroto
『無題(目をつぶると見えなくなるもの/
紙、青、木炭) | oil on circle | wax
on paper | oil and charcoal on
green | paper on paper | wax
and paper on paper | color
label on circle | 無題(目をつぶると
見えなくなるもの/紙、みどり、蠟)』
紙、キャンバス、油絵具、アクリル絵具、木炭、蜜蝋、ほか
1580×1300(2点)、210×297(13点)、420×297(4点)ほか7点

083 ー(展示室3)
松本 万智 Matsumoto Machi
『ルーブループ』
インスタレーション
紙、キャンバス、アクリル絵具、オイルパステル、クレヨン、色鉛筆、ほか
可変

美術専攻[版画コース]

084 ー(展示室3前)
松尾 華子 Matsuo Hanako
『切り取られた庭』
紙、インク、木製パネル、リトグラフ
[最小]200×200-[最大]1080×1500(10点)

美術専攻[彫刻コース]

085 ー(展示室3)
hellowakana
(林 和奏 Hayashi Wakana)
『trap#12 | trap#13 | trap#14』
アルミ、木、セメント、竹、ニス、石粉粘土、レザー、ビーズ、ファーム紙、釘、石、ステンレス、布、綿、鉄、草枝、糸、ほか
1030×2340×2340、可変、500×650×150

美術専攻[美学美術史コース]

086 ー(第10講義室)
ウ テンカイ Yu Tianhui
『ルネ・マグリット研究
ー1943-1948年の作品を中心にー』
論文
48頁(34,740字)

087 ー(第10講義室)
松永 恵実 Matsunaga Emi
『五星を中心とした星曼荼羅の図像分析』
論文
99頁(51,148字)

デザイン専攻 [視覚伝達デザインコース]

088 ー(展示室4)
ウ ベカク Yu Beige
『地図が語る世界認識ー唐〜明における地図製作者と視覚要素の変遷を中心にー』
論文: 145頁(38,039字)、年表: 1650×5500

089 ー(展示室4)
オウ テンテン Wang Tiantian
『世界図絵とは何かー西洋における啓蒙書のエディトリアルデザインの研究ー』
論文: 125頁(45,000字)、年表: 1445×3705

090 ー(展示室4)
チン リン Chen Lin
『日中銅鏡の文化史ー古代世界観に関する探究ー』
論文: 136頁(65,000字)、年表: 5200×1960、映像: 1分37秒

091 ー(展示室4)
ヨウ シジュン Yang Zijun
『書道における仮名文字の構成要素から活字組版への展開ー「高野切第一種」と近世の出版物を中心にー』
論文: 152頁(43,080字)、複製本: 305×112

デザイン専攻 [工芸工業デザインコース]

092 ー(アトリウム1)
ゴ イコウ Wu Weikang
『象嵌筒形花器』
陶土、板作り
210×110×110、210×200×210、230×110×110、230×250×250、240×180×180

093 ー(アトリウム2)
シュウドウ Zhou Tong
『牧畜民の飲料水問題に関する研究』
アクリル、ABS樹脂、3Dプリント
模型: 928×300×300

094 ー(展示室2)
リン チョウチ Lin Chaozhi
『Biibo Service』
プレゼンテーション
PLA樹脂、PVC樹脂、ABS樹脂
模型: 180×400×300、300×380×180

デザイン専攻[建築コース]

095 → 展示室2

近藤 直輝 Kondo Naoki

『解体の実像化』

プレゼンテーション

スチレンボード、ヒノキ棒材、カレースプレー、厚紙、PVC板、ほか
模型: 450×1800×900、300×900×600、各220×420×300
(4点)

096 → 展示室2

西津 尚紀 Nishizu Naoki

『踊る都市一都市の舞台としての天井・壁から建築を考える』

硬質発泡スチロール、発泡スチロール、シナベニヤ、画用紙、カレースプレー、アルミパイプ、アクリル板、ヒノキ角棒、厚紙、ラワンランバーコア、ほか

1/100模型: 1000×1800×700、1/500模型: 250×900×700、ダイアグラム模型: 350×200×200

097 → 展示室2

三原 陽莉 Mihara Hiyori

『tuuuuube』

プレゼンテーション

スチレンボード、スタイロフォーム、紙粘土、紙、カラーワイヤー、バルサ材、アクリル板

模型: 813×1300×900

デザイン専攻[基礎デザイン学コース]

098 → 展示室1

ゴカイジ Wu Kaier

『韻山』

クリア樹脂、紙、3Dプリント

可変

099 → 展示室4

ゴカイセイ Wu Kaixi

『Tasting Scapes』

紙

本: 257×364(62頁)、イラスト: 各210×297(10点)、各297×420(4点)、300×1800(1点)

大学院造形構想研究所

造形構想専攻[CLコース]

100 → 展示室2

岩井 大志 Iwai Daishi

『非専門家のための情緒的価値をもつ3D

モデル造形検討ツールの提案』

コンピュータプログラム

コンピュータ、電子機器、スチレンボード、ウレタン、紙、ほか

モデル: 各50×50×250(3点)

101 → アトリウム2

曾我 修治 Soga Shuji

『受動社会から中動社会への変遷を促す地域デザインの考察』

アクリル絵具、ペットボトルキャップ、レジン、シリコングリース、ガーデンシュレッダー、射出成形機、ほか

論文: 95頁(50,000字)、絵画: 900×900

102 → アトリウム2

チン イ Chen Wei

『都市植生の調査による緑化媒体の提案—東京都文京区根津の緑化をモチーフとして—』

コンクリート、黄銅、ほか

論文: 94頁(45,974字)、床材: 各40×250×250(6点)、壁材: 各250×250×30(2点)、塀材: 各200×200×100(2点)、模型: 100×250×250

103 → 展示室4

中原 采音 Nakahara Ayane

『防災行動を促進するためのサービスデザイン—家庭で食備蓄を始めるきっかけを生み出す提案—』

紙

論文: 128頁(46,648字)、パッケージ: 98×93×33、196×93×33、196×186×66

104 → アトリウム2

野崎 琴未 Nozaki Kotomi

『トランジションデザインアプローチを活用した循環型社会の研究—昭和初期の中山間地域における循環型の暮らしからの考察—』

木材、スチレンボード、紙

論文: 112頁(62,795字)、立体: 2000×1800×500

造形構想専攻[映像・写真コース]

105 → 美術館ホール(上映)

リュウメイショウ Liu Mingcheng

『STRAW』

映像

7分34秒

106 → 美術館ホール(上映)

吉川 啓太 Yoshikawa Keita

『レミニセンス・パンプ』

映像

59分58秒

通信教育課程

油絵学科[絵画コース]

107 → 展示室3

石村 裕子 Ishimura Hiroko

『変わらないもの | 揺さぶられるもの』

キャンバス、油絵具

1620×1303、1620×1303

108 → 展示室3

小山 洋子 Koyama Yoko

『石は流れ、木の葉は沈む I | 石は流れ、木の葉は沈む II』

キャンバス、アクリルインク、水干絵具、岩絵具、顔料、ドーサ

1620×1620、1620×1120

109 → 展示室3

谷口 明美 Taniguchi Akemi

『Weinberg(葡萄酒)』

—光のレイアウト— | Internationaler Flughafen Tokio - 1960er』

キャンバス、油絵具

1620×1620、1620×1620

油絵学科[日本画コース]

110 → 展示室3

澤木 識頭 Sawaki Noriaki

『去来 | 平明』

雲肌麻紙、岩絵具、墨、水干絵具

1303×1620、1620×1303

111 → 展示室3

土屋 絵里 Tsuchiya Eri

『カバ1 | カバ2』

雲肌麻紙、岩絵具、墨、水干絵具、ほか

1455×1120、1455×1120

油絵学科[版画コース]

112 → 展示室3

高橋 真由美 Takahashi Mayumi

『人形たちのシンフォニー I |

人形たちのシンフォニー II |

人形たちのシンフォニー III |

人形たちのシンフォニー IV-1 |

人形たちのシンフォニー IV-2』

紙、水性インク、スクリーンプリント

690×550、750×750、690×550、560×1120、690×550

工芸工業デザイン学科

[生活環境デザインコース]

113 → アトリウム2

大久保 麻子 Okubo Asako

『つむぐ』

ウール、ホームスパン

1980×450、2040×510、2000×350、1680×980、2000×730

工芸工業デザイン学科

[スペースデザインコース]

114 → 第10講義室

長谷川 藍子 Hasegawa Aiko

『脈動する街—今泉公園計画—』

液晶ディスプレイ、メディアプレーヤー、スチレンペーパー、ほか

映像: 3分11秒、模型: 900×800

芸術文化学科[文化支援コース]

115 → 第10講義室

稲井田 有希 Inaida Yuki

『田中一村 没後の展覧会に見る画家像の変遷—「異端の画家」が再評価されるまで—』

論文

50頁(33,706字)

116 → 第10講義室

渋谷 暢恵 Shibuya Nobue

『日本における建築の展覧会—2000年以降の動向—「場」としての位置付けをめぐる—』

論文

43頁(35,319字)

デザイン情報学科

[コミュニケーションデザインコース]

117 → 展示室4

佐伯 翠 Saiki Midori

『広告のレトリック—現実空間の再現を逸脱するメッセージ—』

紙

本: 128×182(270頁)

デザイン情報学科

[デザインシステムコース]

118 → 第10講義室

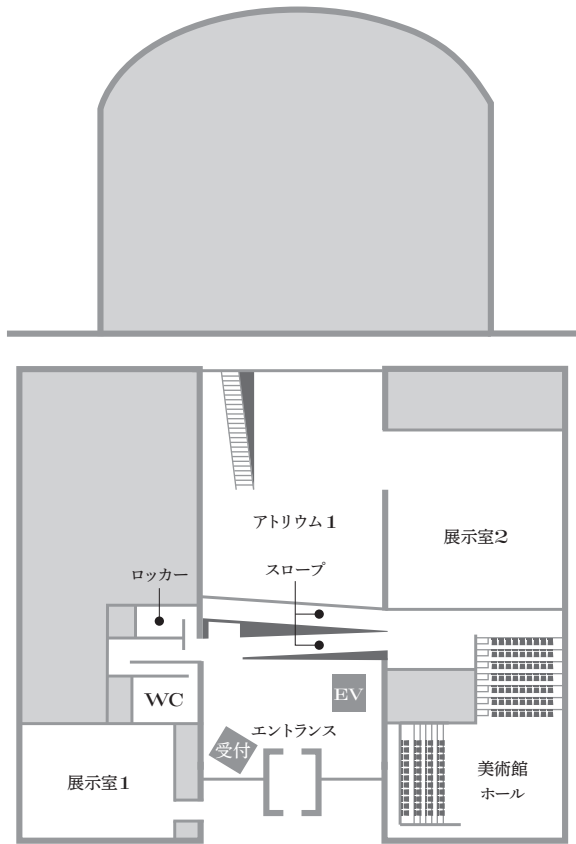
野村 昂平 Nomura Kohei

『μ(ミュー)—海中を可視化するアプリ—』

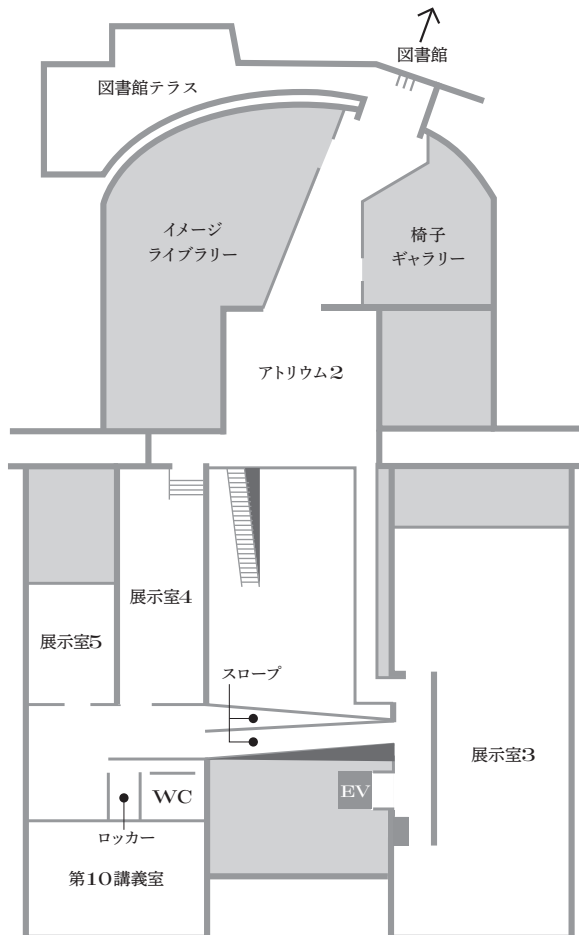
コンピュータプログラム

液晶ディスプレイ、タブレット、スマートフォン

可変



美術館 1F



美術館 2F

2022年度
武蔵野美術大学 卒業・修了制作
優秀作品展

Selected Works
from
Musashino Art University
Degree Show 2022

会期・会場
2023年4月3日(月)―5月4日(木・祝)
武蔵野美術大学美術館

主催
武蔵野美術大学 美術館・図書館

デザイン
大崎 奏矢

編集・発行
武蔵野美術大学 美術館・図書館

印刷
株式会社 山田写真製版所

発行日
2023年4月3日

Twitter
@mau_m_1

MAUM&L